

「この人 36」

村上美和 51歳 愛媛県

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

村 上 俳句は両親がしていましたので、十八歳くらいから自然に始めていました。滑稽俳句との出会いは、八木先生との出会いから始まりました。俳句を楽しんでいたグループに、八木先生をお招きして御指導いただいたのがきっかけです。

編集部 俳句における「滑稽」とは、どのようなものだとお考えでしょうか。

村 上 思わず「唸って」しまう、「頷いて」しまう。そして、「笑って」しまう。心が喜ぶ十七音が、滑稽俳句の魅力だと思います。脳が喜ぶ言葉を探して五七五で表現する。これが俳諧味であると思います。

編集部 滑稽俳句を続けて良かったことは？

村 上 俳句観が広がったような気がします。人様の作品を拝見して、作者の作意に関係なく滑稽を探して見つけ、一人でにんまり楽しんでいます。

編集部 滑稽俳句をつくるコツは何でしょうか。

村 上 コツがあれば教えていただきたいです。まだまだ修業中で、自然に出来れば最高なのですが、難しいです。

編集部 楽しいお話、ありがとうございました。

<代表句>

祝ひ膳ふんぞり返る桜鯛
春の土馬の小便突き刺さる
逃げ惑ひながらも目高胸を張り
王様の休息室の竹夫人
首縦に振れぬ商談扇風機